

〈討論〉

討論は、家の継承についての認識と両対象地の相違に関わって展開された。

まず、家の継承について、相川会員から、家の継承を家系・家業

の継承としているが、兼業化の中で家業の継承がどれだけ意味をもつのか、むしろ家産の継承ではないのか、という疑問がだされた。これに対して、米山町では農業が継承されている事実が示された。また、柿崎会員からは、家經營体＝ベトリー卜は、家産、家業、さらには先祖祭祀までも含んだ概念であるが、これをサラリーマン家庭との比較で整理する必要性が指摘された。

両対象地の相違に関しては、結婚年齢の違い、就業形態の差に端を発して、①結婚後の女子のコース。（米山町）仕事主→家事育児主→仕事なしと、（愛東町）家事・育児主→仕事主。②家計委譲。孫結婚時に祖父母世代から親世代へと、孫出生時に姑から嫁へ（即ち家事担当者がサイフをもつ）。③家族形態。直系家族制の維持と、直系分居家族の散見。④世代間緊張。農業経営の方針と、生活時間。といった違いへと論議が展開した。これらの論議において、こうした差異が、何に由来するのか。また、農業的条件、地域的条件、さらにムラの個性がどう関わるのか。こうした点にも関心が集まつた。最後に座長（高橋会員）から、この報告はライフコースを通して家の動態を見ようとしたのであるが、今後ライフコースと農業との関わり（極論すれば、農業継続が困難なほどライフコースがかわったのか）、長谷川報告にあつた直系分居家族の問題（家計費、高齢世代の扶養・介護等）の解明が待たれるとのコメントがあつた。